

日野郡新そばまつりを盛り上げたい  
ソバ種まき体験とそば打ち体験が開かれる



種に興味津々の参加者



堅く黒いソバの種



散粒機を使って種をまく



種まきを終え、ほ場の前で記念写真

11月10日に開かれる第10回日野郡新そばまつりを盛り上げようと、同まつりの催しの一つ、ソバ種まき大会（日野郡新そばまつり実行委員会主催）が、8月18日、開かれ、町内外からの参加者がソバの種まき体験とそば打ち体験を楽しみました。

ソバの種まき体験は、下本郷の12㍏のほ場で行われ、手動式の散粒機を使い、およそ7割の種を約1時間かかってまきました。今回まいたのは長野県産の『信濃1号』で、2カ月ほどで収穫できるそう。大阪から帰省している参加者は「新そばまつりには何度も参加しています。種まきは初体験で楽しかったです。白い花を楽しみにしています」と笑顔。

また、そば打ち体験は会場を町公舎に移して行われました。参加者のほとんどが初体験。慎重に水を加え、少しずつそば粉がまとまっていく様子に「結構、力が必要だわ」と、苦労しながらもできあがりを楽しみながら進めました。

苦労した分、味は格別。趣ある町公舎のたたずまいの中で、打たて、ゆでたてのざるそばに舌鼓を打ちました。



丁寧に伸ばす



力を入れて練り続ける



初めてのそば打ちを楽しむ



慎重に水を加える

お知らせ

## 第10回 日野郡新そばまつり

日野郡産のソバが堪能できる1日。

会場に足を運んで個性豊かな新そばに舌鼓を打ってみませんか？

とき 11月10日（日）  
10：00～

ところ 日野高校黒坂校舎グラウンド



## 正義感あふれる勇氣ある行動に感謝状

### 行方不明高齢者を保護した足羽優一さん（野田）に感謝状



感謝状を手に笑顔を見せる足羽さん（右）と大下署長

「探し始めたところ、あぜ道に高齢者を見たが農作業の人だと思いい見過ごしました。10分後にもう一度同じ場所を通ると、服が汚れ靴を履いていない高齢者の姿があり、声をかけて名前を聞いたたら、行方不明の人でした」と、当時は振り返りました。

この行動に感謝状を贈った黒坂警察署長、大下和徳さんは「列車事故や熱中症など、最悪の場合も考えられました。高校生の勇氣ある行動は頼もしい。大人が大事に育てていかないといけない。親のしつけが良かったと思う」と、目を細めました。

贈呈式に同席した母親の祐子さんは「野田では夏に夜回り活動をしています。『自分の地区は自分で守ろう』という活動が、今回の行動につながったのでは」と喜びました。

最後に足羽さんは「この行動は特別なことではありません。感謝状がもらえるなんて」と、はにかみながら笑顔を見せました。

8月26日、黒坂警察署で、足羽優一さん（野田）に感謝状が贈られました。  
これは、8月16日の夕方、防災無線から流れた自宅周辺での行方不明者捜索依頼を聞き、自転車に乗って探し回り、無事保護した勇氣ある行動に贈られたものです。  
足羽さんは父親の「頑張って見つけてこいよ」という言葉を力にして野田地区や津地地区まで探しに行ったと話します。

## 継続した防災の取り組みが評価される

### 日野ボランティア・ネットワークが防災功労者内閣総理大臣表彰



高齢者誕生月プレゼント（右）とともに喜ぶ山下さん

事務局の山下弘彦さんが出席しました。

同ネットワークは、防災思想の普及の部で受賞。毎月の高齢者誕生月プレゼント企画や鳥取西部地震の経験を基に、全国およそ30市町村でボランティアセンター立ち上げなどの被災地支援活動などが認められたものです。

受賞を受けて小谷さんは「鳥取西部地震以来、町外から毎月活動に参加していただいている町外スタッフと町内スタッフが力を合わせて行ってきた地道な活動の継続が受賞につながったと思います。喜ばらしいスタッフに感謝し、喜びを分かち合いたい」と喜び、山下さんは「町内はもとより県内外の人とつながりを持って活動してきたことが認められました。これからも、つながりを大事にして活動をつなげていきたい」と、気を引き締めました。

『「防災の日」及び「防災週間」について』に基づき、災害時における人命救助や被害の拡大防止等の防災活動の実施、平時における防災思想の普及または防災体制の整備の面で貢献し、特にその功績が顕著であると認められる団体または個人を対象として表彰する、平成25年防災功労者内閣総理大臣表彰に、日野ボランティア・ネットワーク（小谷博徳会長）が選ばれ、9月2日に総理大臣官邸で開かれた表彰式には、小谷会長と事

表彰状は、開発センター2階の鳥取県西部地震展示交流センターに飾られる予定です。